

# 戦略 1 生物多様性保全への貢献



### 行動計画(飼育展示)①

希少種の生息域内・域外における保全活動に多様な側面から貢献します

#### ズーストック種の飼育繁殖

## 40種

/30種以上(R5計画)



繁殖に成功した40種の一部

東京都の策定した第2次ズーストック計画、および当協会の定める保全対象種のうち、上野14種、多摩11種、葛西11種、井の頭15種、合計40種(※)の繁殖に成功しました。

※うち2種は繁殖仔が死亡し、成長に至らなかった。また、当該種数は令和5年1月1日～12月31日の実績であり、複数園で繁殖した種は1種とカウントした。なお、第2次ズーストック計画では東京都環境局所管の大島公園動物園を含め42種の繁殖に成功した。

#### そのほかの取組

- ✓ 環境省保護増殖事業との連携事業として、人工哺育のツシマヤマネコ1頭を井の頭で受け入れ、繁殖したアムールヤマネコとの同居を実施し、社会性学習を経験させる計画に協力しました。
- ✓ 野生生物保全センターを課組織に昇格させ機能強化を図るとともに、人工飼料の開発や栄養学的研究などを開始しました。

### 行動計画(飼育展示)②

飼育下における動物福祉の向上と維持を図ります

#### 動物福祉体制・環境エンリッチメント

### 環境エンリッチメントと動物福祉について

オンラインによる研修会を開催

内部講師による「環境エンリッチメントと動物福祉について」と題した研修会を開催し、当協会作成の「エンリッチメントハンドブック」の活用方法などを解説しました。動画はアーカイブ化し、全職員に随時視聴できる環境を提供しました。

#### そのほかの取組

- ✓ 上野・多摩・井の頭で動物福祉に配慮した新しいモルモットふれあいプログラムを実施し、合計で約2万6千名が参加しました。
- ✓ 動物福祉委員会を年間5回開催し、日本動物園水族館協会によって行われた動物福祉監査に関する報告や、その他動物福祉に関する協議事項について検討しました。

### 行動計画(飼育展示)③

飼育繁殖事業や調査研究を通じて得られる科学的知見を積極的に情報発信します

#### 国内外の会議・学会における発表・報告

## 56件

/35件以上(R5計画)

印刷媒体やデジタル媒体における調査研究成果の公表

飼育繁殖事業や調査研究等を通じて得られた科学的知見について、国内外の会議・学会や、印刷媒体・デジタル媒体において積極的に発信しました。

#### 国内外の会議・学会における発表・報告事例

●Advancing animal nutrition management at zoos and aquariums of JAZA with a newly developed animal feed database (31st SEAZA Conference)

#### 印刷媒体やデジタル媒体における調査研究成果の公表事例

●ゴールデンターキンの繁殖に関する共同研究 (掲載誌 国際ジャーナルの“Animals”)

## 17件

/20件以上(R5計画)



行動計画(教育普及)①

生物の現状や保全活動、地球環境問題について適切な手法を選択し、より積極的に広く伝えます

野生生物の現状を伝える教育活動



講演会「ゴリラと働く—飼育係と研究者からのメッセージ」

講演会・シンポジウム等を18件開催し、野生生物の生息地における現状と、動物園が取り組む保全活動や、一人ひとりができる環境保全について発信しました。  
ゴリラの講演会では、実施後にアンケートを提出したすべての人が「ゴリラの保全の必要性を感じた」と回答し、満足度3.8/4点満点と高い評価を得ました。

<その他の例>

日本アジアカワウソ保全協会との共催による「カワウソの日記念講演会」、コウノトリまつり2024における講演会など

園内の自然を活用した教育普及活動



巨樹・巨木ツアーの様子

園内植物を教育普及の資源として活用する取組にも力を入れました。上野動物園で「巨樹・巨木ツアー」と「サクラツアー」を開催したところ計195名の参加があり、実施後のアンケートでは「緑への関心が高まった」など回答者187名の全員から「満足」との評価を得ました。

その他の取組

- ✓ テキスト「動物園ボランティアのための動物ガイド」を発行から5年で初めて大幅改訂し、TZV（東京動物園ボランティアズ）全会員に配布しました。

行動計画(教育普及)②

教育機関と連携し、実物を介した体験的な学びを通して、環境教育・保全教育をサポートします

教育普及活動におけるデジタル技術の活用



「おいしい魚 サケとマグロのひみつをさぐれ」

DX活用の視点を積極的に取り入れ、遠隔地と都立動物園・水族園をつなぐなど多彩な教育普及プログラムを展開しました。

<例>

- ・山形県遊佐町の漁業協同組合と葛西臨海水族園をオンライン中継した親子向けプログラム「おいしい魚 サケとマグロのひみつをさぐれ」
- ・上野と伊豆大島をつなぎ、同時に3種の野生のコウモリをライブ中継で比較観察した「トワイライト観察会」

教育機関との連携



オンライン教材「スイミー」

令和4年度に行った教員ヒアリング結果をもとに、国語の読み物「スイミー」のパッケージ教材を制作し、5月に配信しました。

その他の取組

- ✓ 中高生対象の調べ学習「レポートチャレンジ企画」を継続して実施し、生きものを観察するヒントやレポートのまとめ方などをレクチャーするオンライン授業と対面授業を中学校2校に対し4件実施しました。

# 戦略 2 気候危機への対応



## 行動計画① 化石燃料由来エネルギーの消費抑制や利用効率化、再生可能エネルギーの利用に努めます

### 省エネ型設備・機器、再生可能エネルギー設備の導入



葛西臨海水族園

葛西臨海水族園では、電力供給契約について、通常電力から再生可能エネルギー100%電力への切替を実施しました。供給事業者による試算では、年間約2,750トン(※)のCO2排出量を削減する効果が期待されます。

※東京都のキャップアンドトレード制度における算定量

### そのほかの取組

- ✓ 上野は西園無料休憩所周辺屋外灯など計13基、多摩は旧モウコノウマ舎、トラ舎など計84基の照明をLED化しました。
- ✓ 葛西では、繁殖センター17系循環ポンプ外5箇所にて、より高効率なポンプへ交換しました。

## 行動計画② 園内樹木を適切に管理し、緑の充実・保全と良好な都市環境の形成に努めます

### 園内樹木等の良好な管理



ナラ枯れ被害木の伐採作業(多摩)

定期的な樹木点検や整枝剪定を行う等、園内樹木等の良好な管理に努めました。

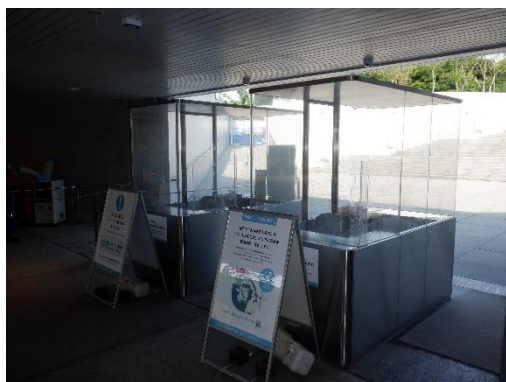
また、近年、各地で猛威をふるうナラ枯れ被害の拡大を防ぐため、多摩動物公園ではナラ枯れ被害木の伐採作業と予防のための樹幹注入作業を継続的に実施しました。

### そのほかの取組

- ✓ ナラ枯れ被害木の伐採後の樹林再生に向けて、暫定的な樹林再生計画を作成し、実生木の保全管理、苗木育成用の苗圃整備等を実施しました。

## 行動計画③ 地球環境に配慮した行動様式の見直しを図ります

### ノンフロン冷媒等を使用する機器への転換



空調機2台を環境に配慮した冷媒機器へ更新した改札ゲート室(葛西)

上野動物園のアイアイの森、多摩動物公園のインドサイ舎、葛西臨海水族園の改札ゲート室など、各園の空調設備について、より環境負荷の低い機器に入れ替えを実施しました。

### そのほかの取組

- ✓ 電力使用量削減に向けたさらなる取組として、昼休みの一斉消灯を推進しました(総務部)。
- ✓ 事務全般の見直しとデジタル化によりペーパーレス化を推進し、令和元年度実績75.6万枚に対し、令和5年度は34万枚となり、約55%の削減を実現しました。
- ✓ DX担当係長ポストを新設し、一部申請様式や文書管理、旅費申請など、庶務事務システム一元化に向けた制度設計を実施しました。

# 戦略 3 循環型社会への寄与



## 行動計画① 各種資源使用量の削減と再利用を推進します

### 緑のリサイクルの推進

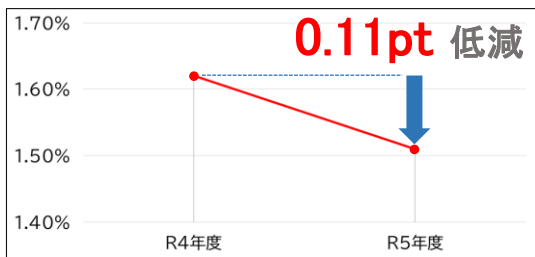
多摩動物公園では、1,200トン超の剪定枝などを園外の再資源化施設にて回収・チップ化し、バイオマスボイラーの原材料や製紙用チップ等の原材料として活用しました。

### そのほかの取組

- ✓ マイボトルの利用を促進しペットボトルの使用量を削減するため、上野にウォーターディスペンサーを1台設置しました。
- ✓ 葛西にペットボトル減容回収機を1台設置しました。

## 行動計画② 飲食・物販店や餌等の食品ロス低減等に取り組みます

### 飲食・物販店の食品ロス低減



4園のロス率推移

飲食店の食品ロス低減に向けたワーキンググループを設置し、各園のフードロスの取組を一覧化・共有するとともに、毎月の削減実績をフォローしました。これらの取組により、令和4年度と比較してロス率(売上に占める廃棄額の割合)を0.11ポイント低減しました。

### 余った飼料などの園内リサイクル



上野動物園 ジャイアントパンダの食べ残したタケを利用した園路舗装

上野動物園では、毎日の飼育管理の中でパンダが食べなかったタケを細かく砕いてチップ状にし、東園・こもれびの小径の園路舗装に活用しました。

### そのほかの取組

- ✓ フンや食品残渣の堆肥化・再利用に関する事例調査を実施しました。

## 行動計画③ 環境に配慮した国際認証製品の使用など、環境破壊を加速させない取組を推進します

### 環境に配慮した製品の使用



環境に配慮した素材を使用した割り箸・カトラリーなど

環境に配慮した素材を使用した割り箸、カトラリー、容器の導入を拡大しました。

### そのほかの取組

- ✓ 多摩のレストランで「コウノトリ育む農法」で栽培した「コウノトリ育むお米」を使用(11月～3月)しました。
- ✓ 量産時に発生する規格外品をアップサイクルしたエコバッグ(上野・井の頭)、東京産の牛乳を使用したミルクシチュー(上野・多摩・井の頭)、海洋プラスチックごみを含む再生樹脂を使用したボールペン(葛西)、ASC認証メニュー「スモークサーモン丼」「スモークサーモンサラダ」(葛西)などの商品を開発・販売しました。

# 戦略 4 地球環境保全に貢献する組織基盤の強化



## 行動計画①

地球環境保全の推進に向けた実践的な組織体制を構築します

### 地球環境保全の積極的な情報発信



ポスター/チラシを制作



ヤマネコ祭り2023(井の頭)に初出展



国内最大級の環境展示会「エコプロ」に初出展

令和4年度の取組状況をホームページで公表し、普及啓発用のポスター/チラシを制作しました。10月に井の頭で開催された「ヤマネコ祭り」に初めて東京動物園協会ブースを出展し2日間で約700名のブース来場があったほか、12月には国内最大級の環境展示会「エコプロ」に同じく初出展し、3日間で約3,000名に都立動物園等の環境保全に関する取組を紹介しました。

### 地球環境保全に関する意識啓発



SDGs研修の様子

外部講師によるSDGs研修を開催し、職員25名がSDGsに関する取組を広めるための「戦略的な情報発信」について学びました。

#### そのほかの取組

- ✓ 地球環境保全の積極的な情報発信として、日野市環境フェア(2月・外部出展)や「コウノトリまつり2024」(3月・多摩)においても都立動物園等の環境保全に関する取組を紹介しました。

## 行動計画②

多様な主体との連携を強化し、地球環境保全のための事業を推進します

### 野生生物保全基金のPR



野生生物保全基金報告講演会の様子

野生生物保全基金を活用した独自の保全活動として、『希少鳥類における域外保全の推進にむけた繁殖生理生態の解明』(岐阜大学)など、12の保全活動に合計1,100万円の助成を行いました。また、基金を通して得られた成果を一般の方に伝えるとともに基金の存在をアピールするため、令和4年度の助成実績に基づいた保全活動報告会を開催したほか、活動概要をホームページで紹介しました。

#### そのほかの取組

- ✓ 野生生物保全基金の助成制度を広くアピールするとともに、助成対象活動を公募し、中高生部門の助成を3件実施しました。
- ✓ サポーター資金について、クレジットカードによる寄付システムの運用を開始し、寄付方法を拡充しました。